

# 教師力を身につけよう！

2015年度 第4回講座テーマ

7/29(水)  
13:15~

「子どもの情報機器へのかかわり方を考える」  
～地域と連携して取り組む～

赤磐市立高陽中学校長 平田 俊治 先生

「携帯（スマホ）という魅力あるおもちゃから、自ら身を守ることができる人間をいかにして育てるか」を考え、議論したり、高陽中学校の組織としての取組を紹介していただいたりする中で、子どもの情報機器へのかかわり方のみならず、学校教育全般に関する大切なことを幅広く教えていただきました。「学校文化の中で自律を促すよう、ルールは子ども主体で考え、決定事項は順守する意識を育むこと」「個人ではなく集団で、組織的に対応すること」「一人でも困っている人がいれば、あきらめず全力でかかわりをもつこと」等、学びを深めることができました。



子どもの情報機器へのかかわり方から、教師に求められる資質等、学校教育全体に関する考え方で教えていただきました。子どもから相談を受けた時には、共感的な理解が必要であり、その後情報収集や周囲との連携等を行いながら解決を目指すことがわかりました。また、学校としての具体的な取組について議論を行い、「学校文化の中で自律を促すよう、ルールは子ども主体で考え、決定事項は順守する意識を育むこと」「個人ではなく集団で、組織的に対応すること」「一人でも困っている人がいれば、あきらめず全力で関わりを持つこと」について、学びを深めることができました。

携帯・スマホ利用に関する取組 学校を通して生徒をどのように育てるか  
スマホの相談・・・個別に生徒の話聞く、状況を聞く、相談場所も考える、何に困っているか聞く  
教師として対応、共感的理解→情報収集→周りとの連携して対応  
問題・・・ゲーム課金請求、自転車よそみ、ネットいじめ、授業部活中呼び出し、かつあげ  
もう少し倫理的にしっかりしてから使用  
学校としてどのような対応をするか 他律から自律へ 個から集団へ 価値観をどう高めていくのか  
発表・・・自立とは考えることの繰り返しで知識を付けること アンケート・情報共有  
道徳時間、保護者会で連絡、子ども主体のグループワーク  
子どもが考える活動、子ども主体性、自分ルールから集団ルールへ 学校のルールを作る（ルール集団化）  
スマホを使わず時間を過ごす手立てを考える→地域活動等コミュニケーション  
全校集会の前にアンケートで問題把握 意識を高めるために集会 その後クラスで討論決まりを決める  
もう一度全校集会で意見を出し合う  
学級通信で保護者と連絡 保護者が代金を払っていることを認識させる  
自分の利用状況を知る 生活への影響を知る 情報担当が集約した情報を事例として還元  
スマホのデメリットだけでなくメリットも教える  
目標設定して定期的に振り返る 学校全体で評価 事例研究  
道徳活動 ロールプレイやビデオ 事例をイメージさせやすい 発表を宣誓 掲示して徹底 保護者連絡  
スマホの危険性を自分で考えまとめる 共有 学級の意見を基に保護者も含め意見交換する  
これらの意見を基に学校のルールを作る スマホ利用時間のむなしさを考える 生の人間関係に意味を考える  
目標実践 評価振り返り スマホが使えない時間を作り、スマホの使い方を考える  
使わせないのではなく、実際使うとどうなるのか事例によって危機意識を考える  
教員も子どもが使っているツールを使ってみて、何が問題になるか把握しておく  
学校での情報共有

学年会ができると若い教員はつぶれない  
保護者に注意 論理的な人は理屈が通らない人に弱る しつこい人  
生徒数の減少により学校内に空き教室があふれている 目が届かない  
巨大団地 経済状態の厳しい人が大量居住 理不尽が多い つぶれないために複数で対応  
真面目に頑張っている子どもを大切にする  
携帯スマホ持込追放推進委員会立ち上げた PTA でも持ち込まない決まり 4割は持ち込んでいる  
第1テーマは「学校内に持ち込まない」

長髪認める ルールは自分たちで作る自分たちで守る

遅刻撲滅実行委員会 欠席以外の全校生徒が守れるとゲーム大会をする

人権委員会 教員にはいじめはわからない 月1弁護士を交えて会議を行う

授業中や他人の写真をSNS 保護者の怒り 損害賠償 便所掃除をし始めた

失敗した仲間で委員会を作って持込を追放した

困っていることを委員会で話し、全校に提案し解決を図る

保護者に話を持って行く 親が代金を出しているから学校に対応できない

誓約書（保護者の責任を問う）提出

少しでも困っている人がいたらルールを守るよう指導

今困っているのは小学生 啓発活動 紙芝居

小学校でも同様の取組が始まった

ネットのつながりは本物？ ネット内の人と直接会わない 本人と分かる書き込みはしない

いろいろな手法を使いながら、広報していった

時間を決めた 塾の後連絡を取りたい 保護者と話し合い22時にした 県は21時

保護者の意見 21時を過ぎて相手に連絡をするのは失礼だとわかってもらいたい

22時まで 使用時間は2時間まで

委員として守ってもらえるよう粘らせる

1. 校則にすると学校を出たら一から頑張らなくてはならない 学校文化を使って、自立できる人間に育てる

2. 個から集団へ

一人では弱い全員でやれば強くなる 社会が認知すれば攻撃する人もいない 組織で対応する

3. 価値観がより高いものへ

一人だけ変わればよいのではなく、一人でも困っているなら助けを出す発想

一人として脱落者を出さない気持ちがなければ教員は務まらない

若者 よそ者 馬鹿者 変革を起こす

教師として必要なものは何

知識は必要だが、バックグラウンドにはなるが、実際の学級経営がうまくいくか

知識が多いほど、バリエーションも広がるし人間的にも魅力がある 今の中に勉強すべき

しかし、実践力は違う 授業はテクニックが必要 知識に裏付けされた実践力は、授業研究等訓練で身につく